

～ シンポジウム 2-5 ～  
「新たな視点で血管機能を診る」

臨床で見た血管指標  
～ 2型糖尿病患者と血管指標 ～

坂下杏奈、秋山義隆、阿部義美、森澤智子  
押谷奈都子、森田智子、松田彰、松田昌文

埼玉医科大学総合医療センター 内分泌・糖尿病内科

【目的】 2型糖尿病患者において血管障害の程度の評価は重要である。指標API (Arterial Pressure volume Index)、AVI (Arterial Velocity pulse Index) の意義を2型糖尿病患者において評価するために四肢脈波測定装置によるPWV (Pressure Wave Velocity) 及びFMD (Flow-Mediated Vasodilation) 測定により得られる血管指標との関連を検討。

【方法】 入院2型糖尿病患者 (n=43、M/F=25/18、年齢:  $60 \pm 13$ 、HbA1c:  $10 \pm 6\%$ ) に血管指標計測可能血圧計測定しPWV、FMD測定結果との相関を検討。

【結果】 AVI、APIは $24 \pm 8$ 、 $25 \pm 8$ であった。AVIは年齢、空腹時血糖、左右baPWVと有意に相関。baPWVとAVI ( $r=0.50$ 、 $p<0.01$ )、API ( $r=0.34$ 、 $p<0.05$ ) 共に相関したがAPIはFMD測定時のstiffness- $\beta$  ( $r=-0.3$ 、 $p=0.06$ ) と逆相関傾向があった。AVIとAPIの意義を評価するため更に因子分析を行った。AVIはbaPWV、年齢、API、血圧を含む因子に、APIはBMI、血圧を含む因子に解析された。

【総括】 血圧測定のみでPWV相当の指標である指標AVIが糖尿病患者にもおもっても有用と思われるが、血圧の影響の評価や、API指標自体の意義については今後の検討が必要と考えられる。

第13回日本AS学会